

JR東海労ニュース

一方的な休日出勤反対！

闘争シリーズ No.21

No. 769 2005年12月12日

JR東海労働組合

大きく広がる 激励・支援・連帯の輪！

日本新聞労働組合連合（新聞労連）

日本自動車運転士労働組合

JR東海労働組合の皆さんへ支援と連帯のメッセージ

2005年12月6日
日本新聞労働組合連合（新聞労連）
中央執行委員長 美浦克教

働く者の生活と健康、そして労働組合の権利の拡大と鉄道の安全を守るために闘うJR東海労働組合の皆さんに、新聞産業の労働者から心からの支援と連帯のメッセージをお贈りします。

JR東海会社の「本人の同意なしの一方的な休日出勤」の強制は、「休日出勤」というそれ自体の問題の大きさもさることながら、本人の同意もなく一方的に命じられている点において、労働者と労働組合の権利の重大な侵害です。必要な人員増がないままにダイヤ増発が常態化していることは、経営責任の放棄にほかなりません。JR東海会社の経営側が、ことし4月のJR西日本の尼崎・脱線転覆事故から何ら教訓を得ようとしていないことが明白です。企業利益をすべてに優先させるその姿勢、発想は、新自由主義の風潮への悪ノリであると言わざるをえません。

企業経営がおかしな方向に進み始めたとき、それをただすことができるのは、現場で働くわたしたち労働者です。事故が起きてからでは遅い。新聞労働者にとって「民主主義の発展と平和に寄与する新聞」を守ることが社会的責任であるのと同じように、JR東海労の皆さんにとって、鉄道の安全を守ることはやはり皆さんの社会的責任でしょう。その責任を果たすために、わたしたちは自らの生活と健康を守らなければなりません。

皆さんの闘いは社会正義の闘いであり、当然の権利の行使です。全面的に支持します。働く者の団結を武器に、ともにがんばりましょう。

以上

メッセージ



日頃のご奮闘に敬意を表します。

JR東海・経営側の一方的な経営姿勢や運行管理に対する抗議の集会に共同の意を表します。

この、JR東海に於ける労働者に対する経営側の攻勢は単なる一部分の問題ではなく、世界支配を企むアメリカ覇権主義と

その根柢に手を貸す日本の土壌が根柢にあり、世界正義の闘い
正義は必ず勝利します！
JR東海労のストを支持します！

JR総連とJR東海労同志のみなさんの闘いに敬意を表します。ICLS、国際労働者交流センターと韓連鐵道労組および六つの地下鉄労働組合はJR東海労同志のみなさんの闘いに支持と連帯をお送り致します。2年間も続けられ、常態化された強制的な休日出勤は、それ事象で不当なことであるばかりでなく、労働者の健康や体調を崩し、後遺症を蓄積させて鉄道の安全を脅かし、第二の福知山線事故を起こしかねないという点から断固拒否、解消されなければならないと言ふみなさんの主張は極めて正当なものであり、積極的に支持します。

そしてこのような労働組合の要求を無視しているJR東海株式会社の経営側に対し、強い怒りを感じられます。また組合としての最後の抵抗と抗議の手段として選擇した、みなさんの指名ストは、正當かつ正しい闘いであることを確信します。

これから先の同志のみなさんの闘いの道程に、様々な壁があるかも知れません。しかし正義は必ず勝利するという信念と確信を持ってれば、そして韓国や数多い世界の労働者たちがみなさんの闘いを見守っているということ、同志のみなさんの闘いに支持と声援を送っているということをお忘れなでいれば、この闘いは必ず勝利出来ると思えます。

もう一度同志のみなさんの闘いに熱い同志愛を込めて支持と聲援を送りながら、みなさんと共に闘い抜くことを約束いたします。
勝利の日まで団結！闘争！

2005年 12月 9日

国際労働者交流センター (ICLS)
韓国全国鐵道労働組合
ソウル地下鐵労働組合
ソウル都市鐵道
釜山 地下鐵労働組合
大邱地下鐵労働組合
仁川地下鐵労働組合
光州地下鐵労働組合

ストライキ突入以降も、全国から檄布・檄紙・激励物資が多数、続々と届いています。

「一方的な休日出勤」の解消に向け
闘争破壊を許さず闘おう！

国際労働者交流センター (ICLS)

韓国・地下鉄の各労働組合